

主体的に学びを調整し、資質・能力を高め合う生徒の育成

～生成 AI 時代に求められる「問いを立てる力」を核とした単元構想の工夫を通して～

<研究主題設定の理由>

本校ではこれまで自立した生徒を育てるため、“生徒の学びのストーリー”を意識し、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実をどこで取り入れるか、どうすれば問いが重なり深い学びにつながるかをイメージして単元を構想し、授業改善に取り組んできた。今年度はこれを基盤としつつ、「生徒が自ら学び、力を付けていく授業」へと発展させ、単元を通した「主体的・対話的で深い学び」の質を一層高めていく。

“学びのストーリー”を意識する上で、今年度は特に2つの内容を重視して単元構想を工夫する。1つ目は、驚きやズレ、矛盾から生まれる問いを単元の中に位置づけ、学びを自分事として捉える内発的動機付けから知的好奇心を生む働きかけを意識すること。2つ目は、生徒が自らの学習状況を把握し、解決に向けた選択や決定を行う場を設定することで、単元を通して自ら学びを調整するプロセスを取り入れることである。その際、生成 AI を対話のパートナーとして活用するなど、デジタル学習基盤を効果的に取り入れ、思考の拡張を図る。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、教師の「見取り」に重点を置く。授業では、付けたい力に照らし、生徒がどのような言葉や姿を見せればゴール（B基準）に到達したと言えるのかを事前に具体化しておく。さらに、単元全体では、生徒個々の習熟度やデジタルツールの活用状況を丁寧に見取り、個々の状況に応じた適切な問いかけや見守りを行う。

また、本年度も「生徒指導の4つの視点」を生かした働きかけを授業の基盤として継続する。学習指導と生徒指導を一体化させ、主体的に自らの資質・能力を磨き上げる生徒の育成に全教職員で取り組んでいきたい。

研究内容

◇授業づくり・学習定着《学び追究チーム》

- 「授業改善2本の柱」を生かした授業づくり
- 学力調査結果の分析を活用した授業づくり
- 「生徒指導の4つの視点」を生かした授業づくり
- 「考え議論する道徳」の推進（特別の教科 道徳）

◇学びの基盤づくり《安全・安心チーム》

- 「仲間づくり」活動の充実（特別活動）
- 安心・安全な風土の醸成

◇なりたい自分づくり《自己探求チーム》

- キャリア学習の充実（総合的な学習の時間）
- 教科の学び・地域の人材・資源を生かした探究活動の充実（総合的な学習の時間）

「授業改善 二本の柱」

1. 知的好奇心と自己調整を促す「学びのストーリー」の想定

◇「付けたい力」とゴールの具体化

学習指導要領に基づき、単元で育成すべき資質・能力を明確にする。その上で、生徒がどのような言葉や姿を見せれば目標達成（B 基準）と言えるのかを具体的に想定する。

◇知的好奇心を揺さぶる「問い」の設定

既習事項とのズレや矛盾、驚きを生む資料提示など、学びを「自分事」化する問いを単元の中に位置づける。

◇主体的に学びを調整する場の設定

学習の見通し（ゴール）から逆算し、解決方法や協働相手などを生徒自身が選択・決定できる場を設定する。生成 AI を対話のパートナーとして活用するなど、デジタル学習基盤を効果的に組み込み、生徒が自らの学びをコントロールし、深めていくストーリーを構想する。

2. 生徒の状況に応じた「見取り」

◇意図を持った「見取り」の実施

事前に想定した「具体的な生徒の姿」に基づき、学習場面（習得・活用・探究）に応じて、一人ひとりの進捗や思考の状況を丁寧に見取る。

◇状況に応じた関わりの最適化

「もうできた」「迷っている」「分かりそう」といった生徒個々の状況を把握し、それに応じた「ヒントの提示」「さらなる問いかけ」「あえて見守る」といった支援を使い分ける。

◇変容を自覚する振り返りと評価

目標達成や自己の変容を自覚する「振り返り」を行い、それを次の学びや指導の改善に繋げる。ICT を活用した他者参照や共同編集の状況も見取りの対象とし、誰一人取り残さない指導を意識する。

授業で生徒と共有したいこと

1. 授業の準備をしっかり行い、チャイムと同時に授業開始！
2. 授業の始まりと終わりは気持ち良いあいさつで！
3. 目と耳と心で話を聴く意識で！
4. 自分の考えをもつ
5. これまで学んだこととのつながりを意識！
6. 自分の考えを根拠をもとに伝え合う
7. 何ができるようになったかをまとめて確認！
8. 授業の最初と最後の変容に着目！